

日本民家集落博物館へ行く

自宅から北へ2駅、そこから歩くと広い緑地公園にたどりつく。地元では「服部緑地」と呼ばれている。すこし歩くと、美しい梅林が見えてきた。まだ咲きかけではあるが、久しぶりの梅林を堪能した。つい「うめー」と言いたくなった。



今日のお目当ては梅より、「日本民家集落博物館」である。緑地公園に紅葉の季節に来たとき、時間の関係で通り過ぎてしまった。博物館の前で、黄色の菜の花が迎え迎えてくれていたようだった。今日は「天皇在位30年記念」ということで、入場料が半額となり、なんだか得した気分。



案内リーフレットから一日本民家集落博物館は、日本各地の代表的な民家を移築復元し、関連民具とあわせて展示する野外博物館です。大阪府豊中市の服部緑地の一角、約3万6千㎡の敷地内に、北は岩手・南部の曲家から南は鹿児島・奄美大島の高倉まで12棟の民家を集めています。各民家とも江戸時代(17~19世紀)の建築で、地方固有の風土・習慣から生まれる様式を色濃く残しています。そこには、土地の自然を活かし、調和しながら生活を営んでいた人々の知恵が随所にかがえます。それぞれの暮らしぶりは時の流れを越えて、今に生きる私たちに、大切なメッセージを静かに語りかけてくれるでしょう。



写真のように、広い敷地に12の民家などが並んでいる。1 河内布施の長屋門
2 日向椎葉の民家 3 信濃秋山の民家
4 大和十津川の民家 5 越前敦賀の民家
6 北河内の茶室 7 南部の曲家 8 小豆島の農村歌舞伎舞台
9 奄美大島の高倉
10 摂津能勢の民家 11 飛騨白川の合掌造り民家 12 堂島の米蔵



なかでも写真下の信濃秋山の民家が興味深かった。一新潟県との県境の豪雪地から移築。入口が前に張り出した「中門造り」になっています。壁も茅葺きで、夏は薄く冬は厚く葺き替えます。床は張らず、土間に茅を広げ、その上にムシロを敷いた土座住まいも特有。雪深い山村の暮らしぶりを伝える貴重な民家です。



駆け足で回ったが、「懐かしい日本の暮らしが見えてくる」野外博物館であった。

(2019年2月26日)